

平成28年第3回定例会 個人質問

平成28年
9月15日



今年は手塚治虫氏のデビュー70周年、記念切手が販売されたり、作品を楽しむもよしなどが開かれている。デビュー作の「アマチャン日記帳」から始まり、生涯に描いた原稿は15万枚という膨大な数。また、生前から刊行された全集は400巻に上る。

その編集に当たり、担当者は当初、既存の作品を調整して再録するだけと考えていたが、予想に反して時間がかかった。手塚氏は、多忙の中でも、過去の作品の古めかしい表現や気に入らない箇所を、ためらわず書き直したという。より良いものを後世に残そう。その情熱は、並大抵ではなかった。過去にとらわれず、より高みをめざす執念を持つ人が、時代を超えた

価値を生み出す事の大切さを、手塚氏の話聞き実感しました。

本市においても厳しい財政状況の中、澤井市政が歩み続けた7年間は、理事者の皆様との二人三脚で、様々な苦労を重ね、挑戦し続ける元気あふれるまちまつばらを、力強く推し進めてきたことに対し、高く評価をすると共に、これからの松原市をどのように進化させるのか、大きく期待するものであります。

手塚氏から学ぶ、松原市を見たときに、新しい松原市を創るには、これまで作り上げたものへのこだわりを、見直す勇気も必要とされる。

人生には完成などないと言われますが、行政も同じだと考えます。限りない向上への道を進む、その途上にこそ発展と充実があると断言されて居ります。

これからも、松原市の発展をめざし、更なる挑戦をしていただきたい事をお願いし、質問へと入らせていただきたいと思います。



1. 未来を拓く松原市の取り組みについて(市長への質問)

Q (1)第4次総合計画における5つの基本目標の評価と検証について及び、今後の新たな展開についてお聞きします。

平成23年3月に、第4次総合計画を策定し、挑戦し続ける元気あふれるまちまつばらを掲げスタートし5年が経過しました。これまでの取り組み及び、評価と検証についてお聞かせ下さい。

また、今後、松原市の新たな発展に向けた市長のお考えをお聞かせ下さい。

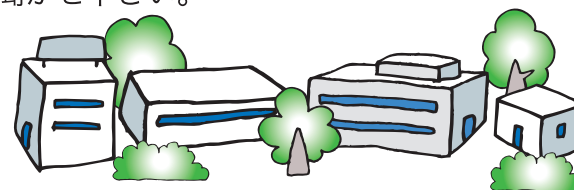


A 私は、この3年間余り、第4次総合計画のまちづくりの5つの基本目標に向け、市政に何が求められているのかを検証し、セーフコミュニティを中心に、協働のまちづくりを進め、日本一健康で安心・安全なまちづくりに取り組んでまいりました。新たな防災拠点として消防署西分署の開署、また予防政策については、大阪府下初となるロタウイルスワクチン接種事業、人口減少問題が叫ばれている中での、雇用の拡大や子育て支援の充実等、様々な事業を展開する中で、ひと・しごとの好循環が期待でき、活力あるまちづくりを進めてまいりました。

これからも更なるチャレンジを進め、スピードと行動力をもって推し進めてまいります。

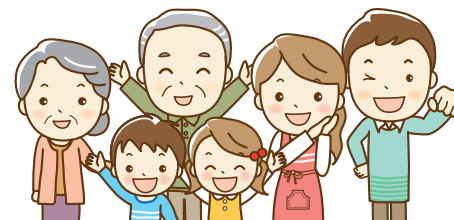
2. 地方公会計について

Q (1)地方公会計については、平成27年12月議会においても質問をさせていただきました。統一的な基準に基づく公会計制度導入への進捗状況や、今後の展開についてお聞かせ下さい。
(2)施設の効果的な維持管理と、有効的な利活用に向けて、地方公会計をどのように活用していくのかを、お聞かせ下さい。



3. まつばらテラスについて

Q (1)新しい施設の完成をまじかにして、市民の皆様の期待も大きいと実感して居ります。また、施設がどうあるべきか、何をめざすのか、具体的な内容も踏まえお聞かせ下さい。
(2)誰もが交流でき、相談できる拠点についての質問ですが、子どもの相談から元希者の皆様まで、なんでも相談できる窓口へとつなげて行く役割を果たし、新たな施設としての充実を図っていただきたいと思いますが、お考えをお聞かせ下さい。



A 地方公会計については、複式簿記を取り入れることにより、資産などのストック情報が「見える化」されるなど、国の要請により平成29年度までの整備が求められております。準備状況については順調に進められており、今後の活用については他の自治体との横断的な比較に活用するなど、市の財政構造の特徴や課題について市民等に対し、わかりやすい説明できるよう、今後の財政運営に活かされた公会計としてまいります。

A 完成後の取り組みにつきましては、これまでの介護予防事業や老人福祉センターで実施していた囲碁・将棋・陶芸など、従来の取り組みに加えスタジオ、調理室、フィットネスルーム等の各施設を民間事業等のアイデアやノウハウを活用し、趣味やいきがい、健康づくり、子育て支援や生涯学習の機能ももたせ、幅広い内容での取り組みを進めてまいります。

また、悩みを抱え相談がある場合には、気軽に相談ができ、必要に応じて市への橋渡し役ができるよう、議員ご指摘の通り、相談者に寄り添った心の窓口が広い施設になるよう、めざしてまいります。

4. 松原市のめざす教育について

Q (1)オリンピックから学ぶことについての質問ですが、今回のオリンピックでの様々から学ぶべきことが多くあり、特に本市前教育委員長井村氏がヘッドコーチとして指導されたシンクロナイズドスイミングチームの姿からは、あきらめない心、チャレンジする強い心が大切だということを教えられたと思います。結果ではなく、そのプロセスに光をあて、子どもたちをやる気にさせ、自信をもって突き進む方向へと導いていくことが、教職員の大きな使命と実感して居ります。また、子どもたちが将来に展望を持ち、自分の未来の可能性を広げていけるような教育について、どのようにお考えなのか、お聞かせ下さい。

A 本市の前教育委員長であった井村監督は、常に現状に満足することなく高い目標を持ち、精一杯努力し続けることや基礎基本の徹底の話をよくされました。松原市の各学校においても、学習習慣や学習規律などの基礎基本の徹底にこだわり指導を継続してまいりました。「あきらめない心」や「チャレンジする心」につきましても、本市のめざす子ども像として、何事にも意欲的に取り組む子ども、将来への夢を持ち地道に努力を重ねる子どもを示し、指導に努めてまいります。

